

令和7年度

まちづくり懇談会資料



～住み続けたい、住んでみたいと思われる
魅力あるまちの実現に向けて～

五霞町長 知久清志

目 次

(Ⅰ) 主な施策の取り組みについて

1 町の近年の人口推移	• • • • •	P3
2 数字で見る五霞町	• • • • •	P4
○TOPICS 1 ふるさと納税寄附金の増加	• • • • •	P5
○TOPICS 2 ごかみらいLABの活動	• • • • •	P6

《懇談》

3 施策1 新たな産業の振興	• • • • •	P7
(1) 役場庁舎と公民館との複合施設整備、商業施設の誘致	• •	P8
(2) 道の駅のリニューアルによる、賑わいの拠点の再興	• •	P9

《懇談》

施策2 健康長寿・福祉の充実	• • • • •	P10
(1) 健康寿命の延伸	• • • • •	P11
(2) 認知症の予防	• • • • •	P12
(3) シニア世代の予防接種	• • • • •	P13
(4) シニア世代の暮らしの充実	• • • • •	P14

《懇談》

施策3 子育て支援の充実	• • • • •	P15
(1) 都市的土地利用の推進、にぎわいのある拠点の整備	• •	P16
(2) 新しい時代に対応した学習の推進	• • • • •	P17
(3) 安全で学びやすい教育環境の確保	• • • • •	P18
(4) 児童の健全育成の維持	• • • • •	P19

《懇談》

施策4 安心・安全、災害に強いまちづくり	• • • • •	P20
(1) 防災対策の強化	• • • • •	P21
(2) 防犯対策の強化	• • • • •	P22

《懇談》

I 町の近年の人口推移

現在、日本は、急速な人口減少と少子高齢化が進んでいます。本町においても全国の自治体と同様に人口減少と少子高齢化とが進んでいます。

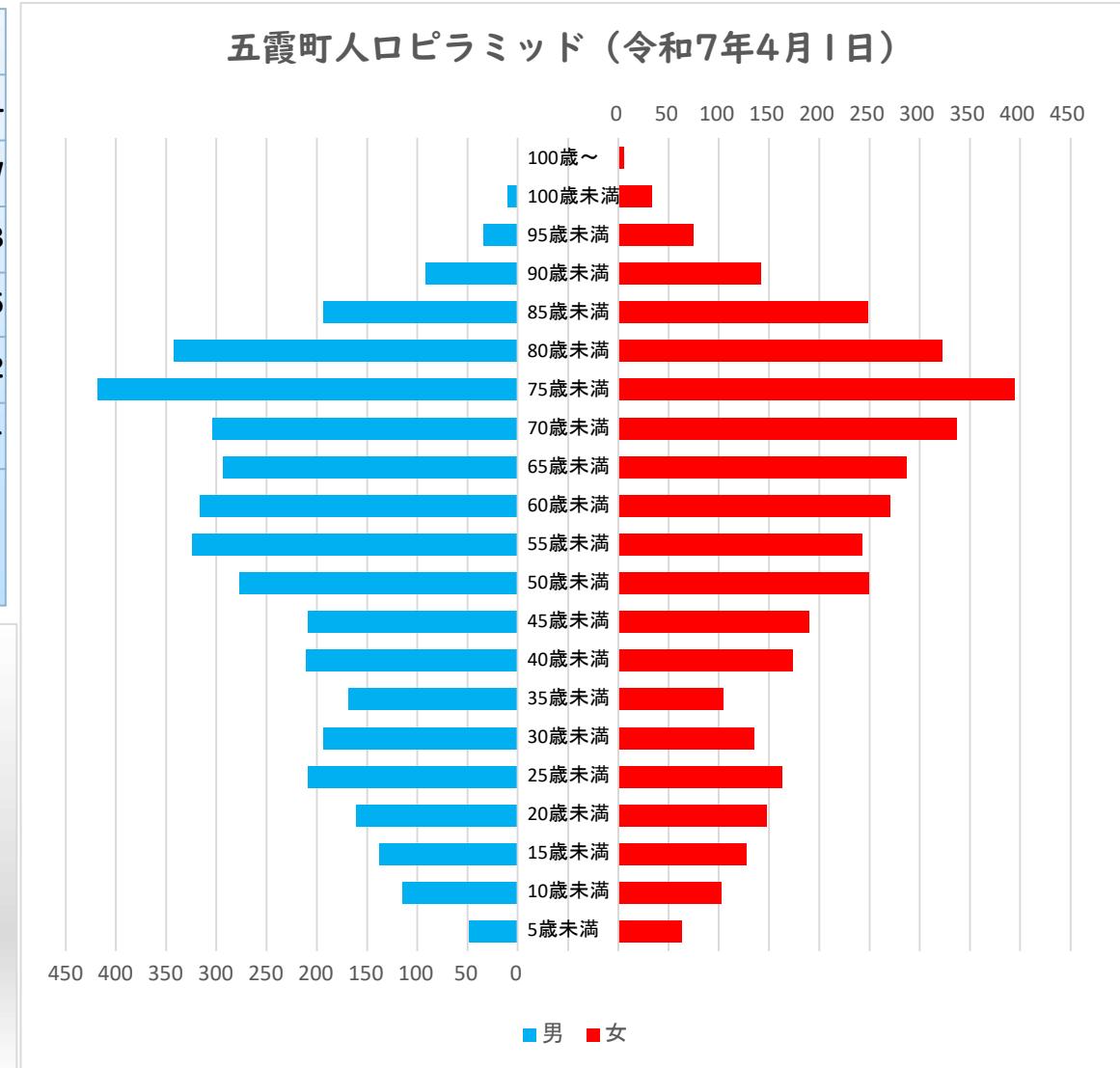
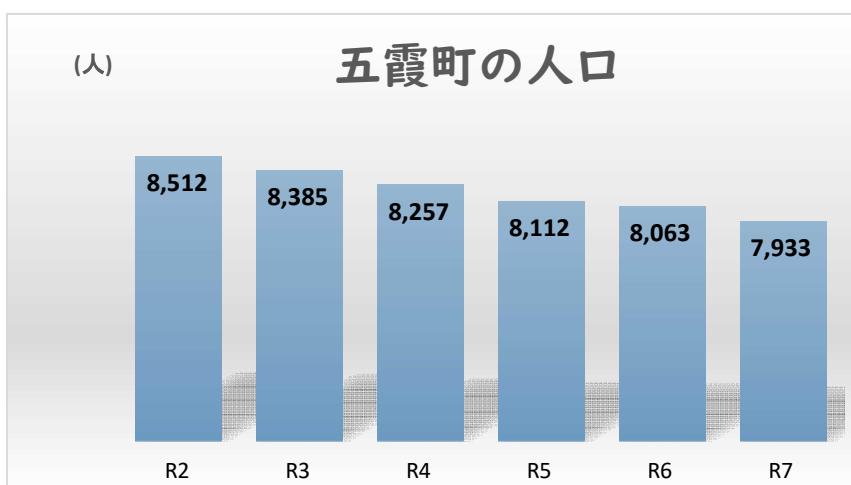
本町の人口は、平成7年の10,460人をピークに減少に転じています。

年	町人口	65歳以上	高齢化率	自然増減	社会増減
R2	8,512	2,825	33.2	△ 103	△24
R3	8,385	2,872	34.3	△ 89	△39
R4	8,257	2,906	35.2	△ 100	△43
R5	8,112	2,929	36.1	△ 94	45
R6	8,063	2,959	36.7	△ 128	△2
R7	7,933	2,946	37.1	—	—

(各年1月1日現在)

(※1) 自然増減=出生者数-死亡者数

(※2) 社会増減=転入者-転出者



2 数字で見る五霞町

【昼間人口 12,145人】

昼夜間比率 150.1%

県内 **1** 位

(全国31位) ※R2国勢調査

【他県への従業・通学割合
27.0%】

県内 **1** 位

※R2国勢調査

【地価公示（工業地）
39,200円／m²】

県内 **2** 位

※R7.1.1

【汚水処理人口普及率
99.5%】

県内 **2** 位

※R5.3.31



【市町村道舗装率
81.49%】

県内 **4** 位

※ R 3.3.31

数字で見る五霞町

【1人当たりの市町村民所得
4,225千円】

県内 **1** 位

※R4

【財政力指数 0.79】

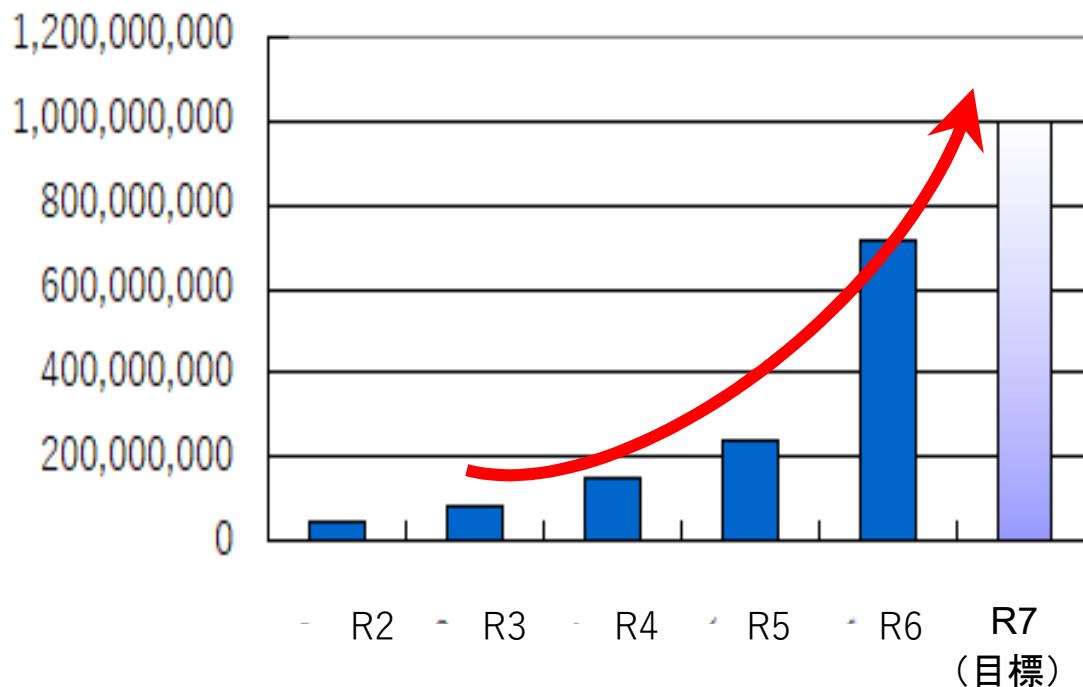
県内 **9** 位

※R6



<TOPICS I> ふるさと納税寄附金の増加

人口減少が進む中、財源確保の手段としてふるさと納税の重要性が増してきています。R6年度には前年度の3倍に増加しました。本町に対する寄附金については、毎年順調に伸びており、本年度は10億円を目指しています。



年度	寄附金額(円)	寄附件数(件)
R2	45,189,000	4,004
R3	81,055,000	5,717
R4	147,934,500	8,719
R5	239,737,100	16,993
R6	717,614,000	42,057
R7 (目標)	1,000,000,000	

令和7年8月末現在
寄附金額 320,961,800円
寄附件数 16,771件

<TOPICS 2> ごかみらいLabの活動

「シン・いばらきメシ総選挙2024～市町村対抗いばらき最強グルメ決定戦～」で一般料理部門グランプリを受賞した「シン・茨城あげそば」の**第二弾**登場。



シン・茨城あげそば第二弾 「豚しゃぶあげそば」

販売日：7月8日

販売期間：夏季限定（9月末まで）

販売場所：道の駅ごか

商品説明：パリッと香ばしいあげそばに豚しゃぶと焙煎ゴマの爽やかな組み合わせ。「夏の新定番グルメ」です。



IBARAKI sense

東京にある茨城県のアンテナショップ「IBARAKI sense」五霞町ブースにて「シン・茨城あげそば」を紹介しました。県内だけでなく県外の方にも、茨城の新しいご当地グルメを食べていただきました。

ごかみらいLab

×

ABCクッキングスタジオ

(地域活性化起業人 大澤さん)

×

道の駅ごか



シン・茨城あげそば

道の駅ごかで販売中



すい～とぽてッフル

施策 I

新たな産業の振興

(Ⅰ) 役場庁舎と公民館との複合施設整備、商業施設の誘致

役場庁舎と公民館を複合化することで、行政拠点、地域コミュニティ拠点を集約します。新たに商業施設を誘致し、新たな賑わいの場の創出を目指します。

土地利用方針の更新

当初、既存の町有地を活用し、複合庁舎の建設を計画していましたが、事業用地を拡大し、商業施設の誘致を行うこととしました。

町民の皆さんの利便性の向上、町の活性化及び魅力アップに寄与します。ここが町の新たな賑わいの場へとアップデートされます。



イメージ図

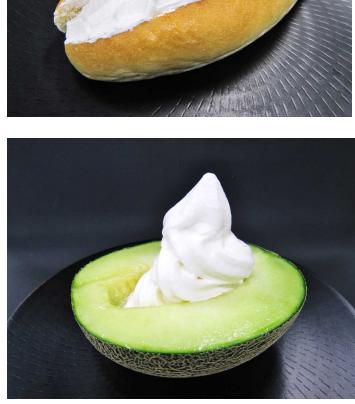


イメージ図になりますので、実際の計画と変わる可能性がございます。

(2) 道の駅のリニューアルによる、賑わいの拠点の再興

道の駅の集客力の更なる向上を目的に、農産物直売所とお土産コーナーとを一体化する改装を行い、令和7年4月5日、リニューアルオープンしました。また、令和7年6月17日～6月30日、「第1回シン・いばらきフェア」と称し、生産量日本一を誇る地元茨城県産のメロンを使ったメロンフェアを道の駅において開催しました。

期間中は、地元五霞町を始めとする茨城県産メロン（イバラキング・アンデス・クインシー等）を特設売場で販売し、茨城県産メロンを使用したシャーベット、メロンサンドコッペパン、メロンソフトクリーム、削りメロン等の特別メニューが販売されました。



施策 2

健康長寿・福祉の充実

(Ⅰ) 健康寿命の延伸 【拡充】介護予防事業の強化

高齢者が認知症や身体的な老化・障害の発症を遅らせ、いつまでも住み慣れた地域で過ごせるよう要支援1・2及び予防プラン対象者に対して、早期に予防支援を実施します。また、生活機能改善のために、運動器の機能向上や栄養改善、介護予防教室等を開催します。

令和6年度の実績

- 1 要支援1・2及び予防プラン対象者に対する予防プランの作成 延べ572件
- 2 生活機能の改善、運動器の機能向上、栄養改善等の短期集中プログラム（3か月）の利用 27回実施 延べ74人
- 3 元気はつらつ倶楽部の開催 131回実施 延べ1,294人（各行政区等で実施）
- 4 介護予防教室の開催 11回実施 延べ139人

通所型サービスC 「五霞ストレッチ教室」



(2) 認知症の予防

【拡充】認知症施策の総合的な取組

認知症の人が孤立することなく、多様な社会参加の機会を確保することによって、生きがいや希望をもって暮らすことができるよう、早期に認知症の人やその家族に専門職が関わり、早期の診断・対応に向けた支援を実施します。

町がコーディネーターを配置し、認知症の方やその家族の身近な生活支援ニーズを支援できるよう体制を構築します（認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を実施）。

令和6年度の実績

- 1 認知症カフェ「Go cafe 心音（ここね）」
認知症の方との交流の場。12回開催 延べ54人参加
- 2 認知症サポーター養成講座
4回開催 延べ95人参加（中学生、役場職員、民生委員等）
- 3 認知症サポーターステップアップ講座
1回開催 14人参加（養成講座を受けた一般住民）
- 4 啓発活動
健康福祉まつりで認知症・認知症予防啓発を実施

認知症サポーター養成講座を受講する 五霞中学校1年生



(3) シニア世代の予防接種

【新規】帯状疱疹ワクチン接種費用の一部を助成

近年発症者が増加している帯状疱疹は、重症化により後遺症が残る危険性があることから、令和7年度に65歳になる方（他の年齢は、経過措置があります。）を対象に、発症の予防効果が期待できるワクチン接種を推進し、重症化の予防を図ります。

また、令和7年度から5年間の経過措置として、その年度に70、75、80、85、90、95、100歳になる方も対象となります。

ワクチンには2種類あり、接種方法、効果、持続期間、副反応等の特徴は異なりますが、いずれのワクチンも帯状疱疹とその合併症に対する予防効果が認められています。

令和7年8月現在の実績

- 1 乾燥弱毒性生水痘ワクチン 22人
接種回数1回 4,000円助成
- 2 乾燥組替え帯状疱疹ワクチン
接種回数2回 1回につき11,000円助成
1回目終了 40人
2回目終了 18人



(4) シニア世代の暮らしの充実

【新規】60歳以上に大好評のスマートフォン相談室の取組み

現在のデジタル社会において、高齢者の方が便利に、安全にスマートフォンが活用できるように、地域おこし協力隊やデジタル推進委員等によるスマートフォン相談室を開催し、デジタル推進を図ります。

スマートフォン相談室の実績

- 1 開催期間
5月13日～7月29日毎週火曜日（全12回）
- 2 会場
ふれあいセンター相談室
- 3 参加者 延べ79人
内訳 60代23人、70代47人、80代 9人
- 4 主な相談内容
LINEの使い方、不要な表示の消し方、
アプリの操作方法、迷惑メールブロック
など

地域おこし協力隊が個別で相談対応



大好評により9月から、月2～4回程度で開催します。また、11月、12月でスマートフォン教室を別途予定しています。詳細は、広報ごか等で周知します。

施策 3

子育て支援の充実

(Ⅰ) 都市的大土地利用の推進、にぎわいのある拠点の整備

【継続】子育て支援住宅整備による快適な住まい環境の創出

快適な住まい環境を創出し、子育て世帯の転入を促進するため、民間の技術的・経営的ノウハウを活用した子育支援住宅を原宿台地区、川妻地区において整備します。（原宿台地区24戸、川妻地区6戸）

子育て支援住宅整備事業の進捗状況

令和7年

3月21日 起工式

4月16日 愛称決定

原宿台 ひだまりレジデンスⅠ

川妻 ひだまりレジデンスⅡ

4月30日 工作物撤去工、看板設置工

5月22日 愛称決定表彰式

6月6日～ 入居者1次仮受付募集開始

7月1日 建設工事着手

9月1日～ 入居者2次受付募集開始

令和8年2月 建設工事完了予定

令和8年3月 入居開始予定

住宅整備イメージ

工事前

① 原宿台地区



② 川妻地区



工事後イメージ



(2) 新しい時代に対応した学習の推進

【継続】英語力及び語彙力・読解力の向上

児童・生徒が受検する実用英語技能検定料の補助を実施しています。

また、小中一貫教育の基本カリキュラムに取り入れられている語彙力・読解力を高める教育を行い、評価として日本語検定を実施しています。

令和6年度実績

1 英語検定受験者

- (1) 小学生 109人（合格者43人）
- (2) 中学生 146人（合格者59人）

2 日本語検定受験者

- (1) 小学2.3年生 94人(88人認定)
- (2) 小学4.5年生 109人(88人認定)
- (3) 小学6.中学1年生 87人(70人認定)
- (4) 中学2年生 50人(23人認定)



学校の授業では体験できない地域の方との交流、創作活動を始め教育活動支援員、有償ボランティア（大学生）による学習支援、小学5、6年生全員を対象としたEnglish Campを実施しました。

English Campの様子

夏休みを活用した各種子供教室を実施することで、子供たちの知的好奇心を引き出し、学習意欲の向上を図るとともに、長期休業中における子供の居場所を確保し、保護者の負担軽減を図りました。



(3) 安全で学びやすい教育環境の確保

【新規】給食費の無償化

【新規】生徒が安心・安全に生活できる学校施設の整備

給食費の無償化

保護者の経済的負担の軽減と子育て支援の一環として、町内在住の全ての小中学生の給食費を無償化しています。また、弁当持参者及び町外の小中学校に通う児童生徒の保護者にも同様の助成を行います。



空調設備の設置

安心・安全な生徒の学習・生活環境を維持するとともに、災害時の避難所として安全性・機能性を確保するため、五霞中学校の体育館・武道場に空調設備を設置します。



(4) 児童の健全育成の維持

【新規】放課後児童クラブ「ごかっ子クラブ」の設置

放課後児童クラブ 「ごかっ子クラブ」の設置

保護者の就労支援及び子育て支援の一環として、放課後や長期休み中、自宅以外で安心・安全に児童が過ごせる居場所が確保できるように、五霞小学校の教室を利用した放課後児童クラブを実施しています。

【登録者数	67人】
小学1年生	20人
小学2年生	14人
小学3年生	15人
小学4年生	11人
小学5年生	3人
小学6年生	4人

令和7年9月1日現在



定員80人で年間250日以上開設（日曜日、祝日及び年末年始は、閉所）

運営は、専門事業者へ業務委託（公設民営方式）

利用者負担金 6,000円/月・人

【8月のみ】 11,000円/月・人

施策 4

安心・安全、災害に
強いまちづくり

(Ⅰ) 防災対策の強化

【継続】地域防災力の向上

実践に即した防災訓練を繰り返し実施することにより、地域防災力の向上を図っていきます。また、災害時における情報収集、伝達などにICT技術を活用し、効率・効果的な防災体制の構築を進めていきます。

令和6年度

6月 避難力強化訓練を実施

- ・マイナンバーカードで避難所における手続きを簡略化
- ・安否情報の見える化やドローン活用により、的確な指示・迅速な情報収集を実現

11月 地震防災訓練を実施

- ・「マイナンバーカード」を使用した災害時避難所での受付簡略化、安否確認の検証
- ・多くの町民を救う決断を行う災害対策本部会議訓練



五霞町初となる災害対策本部の活動に焦点をあてた訓練の様子



地域防災訓練の様子

令和7年度

6月 風水害図上訓練を実施

- ・災害発生時における一連の対応をシミュレーションした行動確認
- ・災害対策本部における職員の役割や連絡体制の確認

11月 災害対応訓練（実施予定）

- ・町民避難訓練
- ・災害対策本部訓練
- ・防災講話



(2) 防犯対策の強化

【継続】子ども見守りスクールガード（学校安全ボランティア）の取組み

【新規】家庭用防犯カメラの購入・設置で補助金

子ども見守りスクールガード

町では「子ども見守りスクールガード」として住民に登録をいただき、登下校時の声かけや見守りを通じて子どもの安全と健やかな成長を支援し、地域の防犯意識を示すことで犯罪抑止にもつなげています。

○令和7年度登録者数 144人



家庭用防犯カメラ購入等補助金

○目的

防犯対策の全域推進による効果的な犯罪抑止策の実施

○申請受付【購入は補助金申請後】

令和7年10月1日～11月30日

○補助金額

30,000円を上限に、補助対象経費の1/2を補助。申請は1世帯1回限りです。
※予算額に達した時点で受付を終了する場合があります。

○手続かんたん3ステップ



※詳細は、町公式HPでご確認いただけます。